

インターバンクの声（2015年9月14日）

8月末のジャクソンホールでの経済シンポジウムも欠席し、ここ最近も連邦公開市場委員会（FOMC）が近づいていることによるブラックアウト期間に入ってしまったこともあり、イエレン議長からのコメントも一カ月以上も聞かれていない。16-17日のFOMCで利上げが決定されるかどうかの各種エコノミスト調査の見方もほぼ半々に割れているようで、中には利上げがあってもなくても市場が大きく揺れ動くような反応にはならないだろうとの予想まで出ている。確かに、実際に足元で120円台中盤にあるドル円がどちらかに大きく動いたとしても上値が122円台、下値も118円台程度であれば、この2-3週間ほどのレンジ内で収まってしまう程度のことになり、緊迫感も薄れてしまうのも致し方ない。週末ニューヨーク市場の債券や株式の反応は、利上げ見送り予想から米国債利回りの低下と、それに伴う公共事業関連株の買いに傾いたようだが、こうした流れが予想通りの結果となっても単純に継続されるかどうかは判らない。市場予想がまとまっている時ほど、異常な反応になることもあるので注意が必要だろう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。